

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春の香りを楽しもう

松本美千代(千葉市)

日 時：2024年4月21日(日) 10:30~12:00 天候：晴れ

参加者：22名(大人12名、子ども10名)

担当指導員：岡田、山岸、松本 参加指導員：相吉、木下

一週間前の下見では広場のドウダンツツジやアケビの花が満開で、ヒゲナガハナバチ、ビロウドツリアブが来ていた。当日はアケビの花はすっかりなくなっており、代わりにノイバラの新芽に沢山のアブラムシが見られた。そこにナナホシテントウと幼虫、いろいろな模様のナミテントウ、テントウの卵、ホソヒラタアブやクロヒラタアブ幼虫がいてにぎやかだった。いきものの里だからみられる光景かもしれない。田んぼ脇の蕾だったウワミズザクラが白い花を咲かせていた。ベンチに今日の観察会で使用する香りの植物を並べて置く。



○香りの植物コブシ・クスノキ・ネズミモチ・ゴマギ・カキドウシオオシマザクラ・ヤマザクラ・ウワミズザクラ・乾燥したクスノキの葉○ふわふわ葉っぱのシロダモ新葉

今日は五感(視・聴・触・臭・味)を使った観察会をしましょうと話をします。入り口広場で持参したショウブとヨモギをみせて端午の節句に厄除けやしょうぶ湯に使うと説明する。カラスノエンドウとスズメノエンドウの違いを観察する。

広場から観察路にはいると「涼しい」と声が上がり、舗装されていない道を「珍しい」と喜ぶ大人がいた。モリチャバネゴキブリやオオヒラタシデムシをみつけて捕まえようとするが、落ち葉の下に隠れてなかなか捕まえられない。虫にとっては安心安全の場所かもしれない。カナヘビを間近で観察する。キュウリグサやクサギの葉のにおいをかぐ。ニワトコ、ドクダミ、ミツバを観察する。

シュレーゲルアオガエルやウグイスの声を聴きながら林縁を歩く。ハートのカメムシ、コナラ葉を巻いたヒメクロオトシブミの揺籃、ケキツネノボタン上のイネ科食のタケカレハ幼虫、イヌガラシに産卵するスジグロシロチョウ、虫食の虫ジョウカイボン、他ではあまりみられないカントウタンポポの花をみる。最初にベンチに用意した香りの植物の匂いを嗅いでもらおうと、ゴマギが大人気であった。

田んぼの中にいたシュレーゲルアオガエルを子どもが見つかる。近くでシオヤトンボのメスが産卵し、その上をオスが守るように飛んでいるのもみることができた。

広場に戻って手を洗い、子どもも大人も黄な粉と小豆のヨモギ団子を試食する。感想を聞いて観察会を終えた。

